

## ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況 2011年11月13日現在（春小麦の生産量予想）

### 2011年産 硬質春小麦の生産量予想と作付新種：

2011年産ノース・ダコタ州硬質春小麦の生産量予想は、昨年の4割減の167,750,000 bushelsであった。減産の大きな理由は、播種面積（収穫面積）の減少と単位収量の減少であった。単位収量は8月1日付け予想より9.5 bu/acre減り30.5 bu/acreとなった。USDAの2011年11月11日発表の2011年産春小麦の生産量予想（11月1日付け）は下表の通りであった。

2011年産春小麦の全米での生産量は455,188,000 Bushelsと予想され、この内硬質春小麦（Hard Red Spring Wheat）は397,689,000 bushels（昨年：569,975,000 bushels）であり、2011年産HRSの生産量は昨年比69.8%であった。

2011年11月11日 USDA 発表：2011年産春小麦の生産量予想

State	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre		Production 1,000 bushels	
	2010	2011	2010	2011	2010	2011
				Nov. 1		
N. Dakota	6,300	5,500	44.0	30.5	277,200	167,750
USA	13,359	12,394	46.1	37.7	615,975	455,188

\*Updated from Small Grains summary released Set.30, 2011 by NASS, USDA

MASS, USDA North Dakota Field Officeによれば、ノース・ダコタ州の2011年産硬質春小麦の中心品種は、“Glenn”であり、同品種の作付面積は全作付面積の18.1%であった。同品種は2005年にNorth Dakota State University（NDSU）より発表され、2010年までは毎年20～25%の作付面積率を維持していた。中心作付け地区はNW、NC、WC、Cent、SW及びSC地区と広範囲に亘る。矮性、強靱な茎、熟期は中間、高容積重と高い製パン適正品種である。第2位の品種は“Faller”であり、作付面積は全体の11.4%。作付け地区はNE、Cent、EC及びSE地区である。同新種は2007年にNDSUより発表された。矮性、中間的熟期、容積重は平均、製パン適正は良好。第3位は“Barlow”で8.5%の作付面積率であり、NC及びCent地区に多く作付けられている。2009年にNDSUより発表された品種。高容積重を望める品種。第4位は“RB07”で作付面積率は7.0%であり、SW及びEC地区に多い。2007年にUniversity of Minnesotaより発表された。製パン適正が極めて高い品種。ノース・ダコタ州の硬質春小麦の作付面積の約86%を20品種が占め、残り14%にその他統計上不明な品種が作付けられている。

以上